

## 30 当院の透析患者における死亡原因の検討

諏訪赤十字病院臨床工学技術課 斎藤浩美, 清水聖子, 丸山朋康,  
井川さおり, 宮川宜之, 奥山隆之, 同腎臓内科 南聡, 笠原寛

### I はじめに

透析技術の進歩により、長期透析患者が増加し、高齢者の透析導入も増えている。一方で、透析患者の生命予後は未だに不良であるといわれている。この様な背景から、当院での透析患者の死亡原因につき、検討した。

### II 対象

過去5年間(H9年1月～H13年7月)に当院で死亡した透析患者36名(男性22名・女性14名、平均年齢60.3±23歳、透析歴0～24年)とする。

### III 方法

対象患者の年齢・透析歴・原疾患・糖尿病の有無をretrospectiveに解析する。

### IV 結果

1. 年齢別では、60歳から75歳未満が15名、75歳以上90歳未満が11名と全体の7割を占めた。(図1)
2. 透析期間別では、透析導入から12ヶ月未満が11名、1年以上5年未満で9名と、透析期間の短い患者に死亡者が多かった。(図2)
3. 透析期間が0～5年未満では、感染症による死亡者が多く、5年以上では、脳血管障害が多かった。また、脳血管障害の死亡例の7割は冬季に集中していた。(図2)
4. 有糖尿病死亡群においては、一定の死亡原因に集中する傾向は認められなかった。(図1・図2)
5. 全国では、心不全が多数であるのに対し、当院は脳血管障害が多かった。(図3・図4)

図1 死亡原因分類(年齢との関係)

	30～44歳	45～59歳	60～74歳	75～89歳	90歳～
心不全	1	1	1(1)	2	
脳血管障害		5(9)	2(2)	2	
感染症			3(1)	4	
悪性腫瘍			2(2)		
心筋梗塞		2(1)	2(1)	1	
肺梗塞		1(1)			
その他				1	
不明			4		

( )内は有糖尿病群を示す

斎藤 浩美 諏訪赤十字病院 臨床工学技術課  
〒392-8510 諏訪市湖岸通り5-11-50 0266-52-6111(2208)

図2 死亡原因分類(透析期間との関係)

	3ヶ月未満	6ヶ月未満	12ヶ月未満	5年未満	10年未満	15年未満	15年以上
心不全		2	1			1(1)	1
脳血管障害	1(1)			2(1)	2(1)	1(1)	3(1)
感染症	3	2		1(1)			1
悪性腫瘍				2(2)			
心筋梗塞				2(1)	1	1(1)	
肺梗塞				1(1)			
その他							
不明		1		1	2	1	

( )内は有糖尿病群を示す

図3

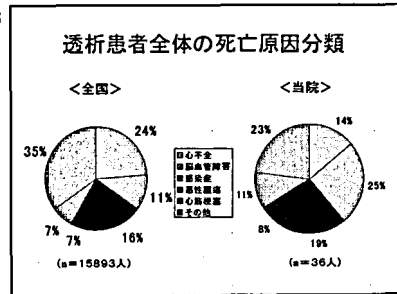
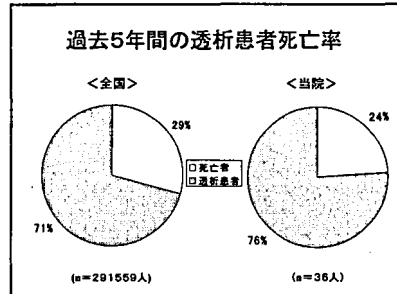


図4



### V 考察

1. 透析導入から6ヶ月未満において、感染症による死亡者が多かった。これは、日和見感染の原因として免疫機能の低下や栄養状態の悪化などが関与していると考えられる。
2. 脳血管障害による死亡が年齢別・透析期間別共に多数であり、この中で、冬季に発症しているのが7割であった。これは、血圧の上昇に気候的な問題が関与している可能性も考えられた。
3. 全国と当院での透析患者死亡率は、有意差はなかった。これは、標準的な透析管理が行われていると考えられる。

## VI まとめ

1. 透析患者は透析導入時を含め、易感染状態であると考えられる為、関与するスタッフの感染防止意識が重要であると考ええる。
2. 長期透析患者は、脳血管障害で死亡する事が多いため、特に冬季における十分な血圧コントロールが必要と考ええる。
3. 透析患者死亡率は、全国と比較して有意差はなかったが、死亡原因の傾向を見直し、死亡率減少に努めていきたい。

### 引用参考文献

- 1) 前田憲志 : わが国の慢性透析療法の現状, 日本透析医学会, 1999